

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。議長より登壇の許可をいただきましたので、新政和クラブ松尾初秋の一般質問をさせていただきます。答弁のほうは正確で、簡潔にお願い申し上げます。

まず、今後の特産化のあり方ということで、レモングラスに対して、今まで幾らぐらいの市のお金を使ってきたのかをお尋ねいたしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

平成19年度試験栽培費として250万円、平成20年度が400万円、平成21年度が426万円の合計1,076万円となっております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

今、1,076万円という答弁をいただきました。このほかにも朝日町のまちづくりですね、これは寄附金を原資とするまちづくりからも500万円ほど出ておるわけでございますけれども、私の自分の考えを今から言いますけれども、私は石の上にも3年ということで、もう受け皿であるハッピーファーマーズもできたので、行政としては手を引くべきだという考えを持っております。これは市長もそういうふうな答弁をされておられますけれども、私はもうひとり立ちさせなければいけないというふうに思っております。今まで市税のお金を呼び水として使ってきた。呼び水は呼び水ですね。今後、行政が川になっちゃいかんと思うわけですよ。川になるのは、この民間の会社がしっかり川になって大河になってもらえればいいと思うわけでございます。

市長も子ども議会の中でも、また、この前の前田議員の質問に答える形で、レモングラス課は本年度まででなくすという答弁をされております。これは私は市長と考え方が一緒じゃないかなと思っておりますけれども、前田議員のほうはレモングラス課はもっと続けていくべきだという考えも言われておりますけれども、改めて質問をしていきたいと思っております。

私は、行政としては一線から手を引くべきだというふうに考えておりますけれども、再度答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

簡潔にお答えしたいと思います。

レモングラス課はなぜ廃止ということを思ったかということ、実は経済産業省のマーケティングアドバイザーによれば、費用対効果だともう3億円以上出ていますよということ。そして、市が少なく見積もっても1億円以上がもう出ていますよということですので、これは雇用創出効果、市内への経済波及効果、行政視察等もたくさんいただいておりますので、それとマスコミ等で報道される武雄市の宣伝効果を含めると、もう行政の役割は終わったということは思っています。先ほどいみじくも松尾議員がおっしゃっていただいたように、呼び水としては本当にいい呼び水だったなというふうに思っておりますので、これが無駄金ではなくて、生きたお金となったというふうに理解をしております。そういう意味では、行政は一定の役割は終えたというふうに認識をしております。

**○議長（杉原豊喜君）**

20番松尾初秋議員

**○20番（松尾初秋君）〔登壇〕**

レモングラス課が手を引く分、いのしし課にですよ、イノシシの特産化事業に私は力を入れていただきたいなというふうに思うわけでございます。

普通聞いたら、ちょっとおかしいような話ですね。片方はもうやめんしゃい、片方は一生懸命しんしゃいということをするように人は思うかもわかりませんが、やっぱりそれはある程度の期間があって、もうレモングラスはことしいっばいで3年ぐらいたつし、いのしし課はまだ始めたばかり、立ち上がったばかり、生まれたばかりですよ。そこで、私も問題点等を調べました。現場に行って調べてきましたけど、いい肉を保存するための冷凍庫が不足しているという話も聞いております。1日2頭ぐらいとれて、今から、秋からいい肉がとれていくんですけれども、その分が不足しているという話も聞いておりますし、他のところで加工したのをスライスするような場所ですね、2次加工の場所、これも不足しているというふうな話も聞いております。

いのしし課の今まで市がつぎ込んだ資料をもらいましたけれども、最初、平成20年度につくったとき、建設費の補助ということで200万円払っておられます。それから、ことし、イノシシ肉の特産化ということで300万円、合わせて500万円ですもんね、今のところ。で、イノシシの事業というのは、特産化事業として生まれたばかりなんです。もっと私は市税をつぎ込んででもしっかり育ててほしいなと思うわけですよ、はっきり言って。

この前、市長も赤米の話もされましたけれども、赤米もいいですけども、まずはイノシシ事業をしっかり育てていただきたいと思えます。

イノシシの特産化事業に対して、市として力を注いでいただきたいと思えますけれども、いかがでしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

## ○樋渡市長〔登壇〕

松尾初秋議員のおっしゃるとおりでございます。私もイノシシの場合は一石二鳥から三鳥あるというふうに思っています。駆除の問題と、それを特産品加工すると。それと、あしたのNHKの「ニュースファイル佐賀」にも流れますけれども、これは非常に武雄のいい意味での宣伝効果にもなっています。そういう意味で言うと、行政としてはさらに後押しをしようというふうに思っております。松尾議員と同じであります。

## ○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

## ○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

しっかり育てるように、よろしく願いしておきます。

次に、生活道路についてお尋ねをしていきたいと思えます。

これは、実は前6月議会で黒岩議員が私の地区の市道の話を、北方の道路と比較対照してお話をされました。その件についてお話をしていきたいと思えます。これは市道の鳴瀬花島線ですね、花島のほうから行けば鳴瀬のほうに行く市道ですよ。そこから入ったところの保育園に入るところの市道高見下線という道路なんですけれども、これは宮本議員が栄八通信にそのこともうたっておられまして、そのことについて「製作後記と今後のプラン」ということで、そのことに触れられております。そここのところを私もちょっとパネルにしてきたんですけれども、こういうことを言っておられましてですよ、いいですかね。（パネルを示す）

読み上げたいと思えますけれども、私はここで不思議に感じたので、ちょっと質問のほうに使わせていただくんですけれども、「今議会他議員の一般質問の中で、私の親戚の家の前の道路が、舗装されたのは、私が口利きをして、私的要求をした、政治案件または議員案件のように取れる指摘があった。現に市民の方が、そう取って、質問して来られる事もあった。しかし、建設部長の答弁のように、私は、その道路の件は、市に一言も言っていない。疑念をもたれた理由として、そこだけ修理してあり、道路は全体をするものとの指摘だったが、逆に他の所は、整備されていて、そこだけ、旧家で穴だらけになっていました。また私も、こんな事もあるかと思って、意識的に言わなかったのが良かったと思う。」ということで、私がちょっと気になった点は、私はこの地区の議員なので道路のことを熟知しておりますけれども、「他の所は、整備されていて」と、ここがちょっと私は気になったわけですよ。本当にそういうことがあるのかなと、私はいつもこの道路を通っていますけれども、まだまだ私は不備があると思っているわけですよ。宮本議員はこういうふうにおっしゃるので、写真を撮って皆さんに、市民の皆さんと一緒に検証をしていきたいと思うわけでございます。

（写真を示す）これですよ、この道路ですよ。これは執行部のほうにも資料をやっていますから、見とってくださいね。それで、この道路は、この前、黒岩議員が御指摘されたの

は、ここからこっちの話をされたわけですね。この道路が高見下線という市道なんです。この辺をずっと私が見たぎ、他のところは整備されているという感じがしない、もっとアップした写真があります。（写真を示す）これを見てください。どがんしてでも整備された道路に見えない、立派な道路に見えんわけですよ。ふせこけですよ、ふせこけ。穴もほげていますよ。私はそう感じますけれども、またこの先もありますね、この先の写真もあります。この先がこういうふうになっているわけですね。この辺はざらざらして、もう舗装がはげておるわけですよ。この辺にわだちもできているし、他のところは立派な、要するに整備されていると、私はそういうふうには感じませんが、市長、この写真を見て、あなた整備されて、これは立派な道路だと思いますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

思いません。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

じゃあ、この内容は、はっきり言って、もううそっぱち新聞ですもんね。うそっぱちですよ。「他の所は、整備されていて」、整備されていないですよ。

私が一番言いたいのは、これを見てくださいよ、花島保育園。ここに行く道路なんですよ。こういうふうなわだちにはまって、園児が通園のときとかにけがでもされたら、私は訴訟問題になると思うわけですよ。これは一刻も早く、至急に整備をしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この路線については、まず道路パトロールにおいても、亀裂補修工後の舗装面の傷みを確認しております。そういう報告も私に来ておりますし、私自身もこの通告を受けて現場を見に参りました。非常にやっぱりこれ、先ほどありましたように、園児が特に通られるということからすると、非常にやっぱり危ないと、結構段差のあつですもんね。ですので、これは早急に補修をいたします。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

まあ、至急お願いします。

次に、水害についてお尋ねをしていきたいと思います。

この緊急雇用対策、これは平野議員もこの件はちょっと触れられましたね。緊急雇用対策ということで、ちょっと読ませてもらいますけれども、災害時の要援護者の訪問調査事業というのが今度9月の補正で出ておりますよね。そこで、この内容を読みますと、事業概要ですけれども、災害時に要介護者に対する対応の確実なものとするために、生活や就寝の場所や避難場所を調査し、緊急対応を準備するというので、今回の調査がですよ、橘、朝日、北方、武雄、永島地区となっているわけですよね。ということは、私が推察するには、この武雄町でわざわざこの永島地区をこういうふうな調査対象に上げられているということは、武雄町内でも永島地区は水害のひどい地域、そういう認識をまず持っておられるのか、お尋ねをしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

大庭政策部長

**○大庭政策部長〔登壇〕**

お答えいたします。

今回、緊急雇用対策で調査をする範囲ということで上げたのが、今議員おっしゃいますように、常時冠水をするところというようなことで上げております。そういう意味で、この永島地区もよく冠水するというので、強く市も認識をしているところでございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

20番松尾初秋議員

**○20番（松尾初秋君）〔登壇〕**

認識を持っておられるということで質問をずっと続けていきたいと思いますが、実は、特にひどい地域ですね。これは永島の一本松という地区ですよね。これは永島の郵便局、簡易郵便局かな、そこから東のほうに入った道路の先なんです。ここはひどいところなんです。それで、私も今までにいろいろ事業をお願いして、平成17年に事業費が630万円をかけてもらって、要するに工事場所として、今さっき話した鳴瀬花島線の道路の花島橋の横のところの暗渠が1個しかなかったわけですよ。そこを2個にふやしてもらうことによって、そういうふうな水が、そこを流れて流れるか、流れを少しでもよくして、冠水時間を短くするような工事、対症療法的な工事はしていただきました、平成17年度に。でもですよ、はっきり言って、これは抜本的な解決に至っていないわけですよ。

私も歴代の市長さん、私が議員になってから石井さん、古庄さん、頼んできました。でも、できなかったわけですが、これは聞いたようなフレーズかもわかりませんが、樋渡市長の、あなたの力で、あなたの力で、あなたの力で解決してほしいんですけども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

本当に、私も水害が起きたときに当地区に参りましたけれども、やっぱりあふれ出る水のスピードが早いんですね。これは恐らく構造上にやはり問題があるだろうということを思いましたので、まちづくり部に対しては調査をきちんとするということを指示いたしております。そういった意味で、ちょっと調査をまずさせていただいて、もうどがんすつきよかとかというとも、私もですね、私の力ではなかなかまだ厳しゅうございますので、一たん時間をちょっとかしてさせていただいて、調査を踏まえてきちんとやっていきたいと思っております。松尾議員のお力をぜひ拝借したいと思います。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

とにかく市長、あなたの力で何とかしてください。私は技術屋でもないのに、市長にはしっかりしたスタッフがついておられますので、何とかこれを本当に、この辺の地区は本当に困っておられます。お願いします。何とかしてください。

次に、カジノ特区について私は質問をしていきたいと思っております。

資料をちょっと読ませていただきますけれども、これはハウステンボスの場内でカジノをということで、自治体と民間の団体で本年の6月にカジノ特区を提案されているわけですよ。それで、そこの中には佐世保市さん、長崎市さん、諫早市さん、大村市さん、西海市さん、嬉野市さん、武雄市も一緒になって出しておられるんですよ。それに佐世保商工会議所と西九州総合リゾート研究会による共同提案をされておるわけですよ。こういうのが6月に出てるわけですよ、カジノ特区をですね。

私は今、自分の思いを話しますと、私は前からと言っておりましたように、武雄市にカジノをとという思いがございました。それはやっぱり武雄市の温泉街を再生させたい、カジノで再生させたいという思いがあったわけですよ。それはどういうことかと申しますと、歴史を考えていただきたいと思うわけですよ。武雄の歴史。武雄の歴史は武雄温泉の歴史ですね、温泉街の歴史ですね。これを振り返った場合、やっぱり最初、佐世保の軍港が、鎮守府ができたわけですよ、明治のころに。それからやっぱり佐世保の海軍さんたちの奥座敷として物すごく繁栄したわけですよ。古いころから私も聞いております。で、こういうのを言うのは、ちょっとここでは不適切かわかりませんが、何でも、何でそういうふうに華やかに繁栄していたかということは、これは遊廓なんですよ、はっきり言って。これは歴史であり事実であるわけですよ。そういう意味においては、同じ本能に根差すということを考えると、ギ

ャンブルですね。このカジノでまちが富み栄えればという思いがございました。でも、今回は、ハウステンボスの中であるというふうな申請をされております。私はそういう思いがございました。延々とこのカジノのことも何回か質問しておりますけれども、そういう自分の思いがあったということをちょっとここで述べております。

まず、申請状況を見たいと思いますけれども、それを見ますと、今までの特区に対する、このカジノの特区ですね、この特区の申請は2003年に4団体ぐらいあっておるわけですよ。自治体もあるし、そういうふうな団体もありますよね。それで、2008年にも5団体。すべて却下されているわけですよ、今までの。今回と申請内容、どう違うのか、まずお尋ねしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

前田営業部長

**○前田営業部長〔登壇〕**

お答えしたいと思います。

先ほどありました以前の申請につきましては、平成3年、平成8年に先ほどございましたように、9団体が申請されました。その中の特区の申請の理由の中に、現在（発言する者あり）2003年と2008年ですね、失礼しました。

今までの特区の申請の中身を見てみますと、いずれも刑法の中で制限されておりますので、刑法の適用除外の特例の申請であったわけですが、そういうことで刑法の特例は認められないということで、いずれも却下をされたということでございます。

そこで、今回の共同提案の中身を見ますと、今回は刑法の特例はなくて、カジノの実現に必要な特別法の整備を行うということです。これについては、例えば、競輪とかボートとか、そういう特例の法をつくってできるようにするということです。

それから、2つ目に地域は限定をして、外国人等を対象にして設置をするということで、それが2点目でございます。

それから、3つ目にカジノの施行者については、地方公共団体としておりまして、運営については一括委託契約方式で、法人でやってもらうということで、この3つが今回の特区申請の特徴でございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

20番松尾初秋議員

**○20番（松尾初秋君）〔登壇〕**

わかりました。今までは刑法の適用除外を求めるような申請、今回は新しい法律を求めるような申請ということでわかりました。これがもし通った場合、公設民営になるということを見ると、カジノ施行者というのは佐世保市を中心とした地方自治体になるということが言えると思うわけですよ。一部事務組合になるかもわかりません。そこで、やっぱり私は武

雄市も施行者の一員になるわけですから、これを市長さんに一緒に提案してくださいと、申請してくださいというお願いのとき、ある程度、もしこれが通った場合、これは仮定の話ですけれども、ある程度話を私にしておくべきだったんじゃないかなと、しているかもわかりませんよね。そこは私も答弁受けていないのでわかりませんが、取り分をですよ、もしこれがオーケーになったときは、うちはこれだけもらいますよと、あなたはこれだけですよとか、やっぱりこういうのは私にしておくべきだと。これは私の人生観からそういうふうと思うんですけれども、市長そういうところはどがんやったですか、話しされましたか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は慎重派でございますので、まだその話まで至っておりません。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

これね、後でもめるわけですよ。君子豹変すという言葉もありますけどね、人間というのは欲得で変わるわけですよ。だから、そういう一番大事なところは、きっちり話をしておくべきだ。ああ、余計なつばい、かつてえんばいて言われたらどがんすつですか、はっきり言って。そこはやっぱりある程度の線はですよ、自治体同士の話になってくると思うので、口約束でもいいですから、合い中に人間を何人か入れて、きっちりその辺の一番大事なところはやっぱり話しておくべきだと私は思います。

そこで、私はこの特区の問題点ですね、答弁の中にもございましたけれども、対象を観光外国人に限定している点ですね。これは私気になるわけです。それは何でかといいますと、そういう意味では特区としては通りやすいかもわかりません。これはそうも思いますけれども、やっぱり観光外国人に限定するということは、外貨が足りないために外貨を稼ぐための発展途上国の発想ですもんね、はっきり言って。やっぱり先進国である日本がとるべき姿ではないと、こう私は第1点目に思うわけです。そして、やっぱりアジアを見てみても、韓国だって今現地の人が行けるようなカジノもできています。私が調べたところでは、アジアの中ではカンボジアとかベトナムですよ、こういうところが外国人に限定しているカジノなんです。もう発展途上国の発想ですよ、第一に。

第2点目ですね。これは資料をもらいましたが、懸念される事項ということで、カジノに対する意識調査というのがあって、暴力団の関与、風紀の乱れ、青少年への悪影響ということで犯罪抑止という面でこういうふうにされたのかなと、これは推測ですけれども、思っております。でも、これは全然逆なんですよ。何でかといいますと、今、大都会に行けば、違法カジノ、アングラカジノはたくさんあるわけですよ。で、日本人が行けるような正当なカ



ジノをつくることによって違法カジノを駆逐する、これこそが犯罪を抑止することじゃないかなと思うわけですよ。

もっとわかりやすい例を言ったら、米国で1930年代かな、ちょっとわかりませんが、不確かなんですが、禁酒法であったでしょうが。だれがもうけたですか、密造酒で。犯罪組織がそれで大きくなったわけでしょう。だから、そういう意味を考えますと、私はその2点から考えると、ここに限定するのはおかしいと。私は法自体を厳しくすることが必ずしも正しくないと考えます。私はそういう考えを持っております。

この点について、この外国人に限定した点について市長はどう思うか、答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

どっちをとるかだと思うんですね。いきなり日本人まで広げて、もともとハードルを高くして、内閣府に対して行くのか、それとも、これは佐世保が主導して今やっているんですけども、ハードルを下げて認めやすいほうに行き、そこで広げていくというふうにするか、2つに1つだと思うんですね。そういう意味で言うと、今、私も入っている研究会がとっている姿というのは、理想論としては興味深く拝聴いたしましたけれども、現実論としては、我々のやっているほうが現実論としては達成しやすいという意味ではいいのかなと思いますので、目指す先は一緒ですけども、道がちょっと初秋さんと私とは違うのかなというふうに思っている次第です。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

私も最初言いましたように、通りやすいかもわからんということもあるかもわからんと思います。

ただ、日本という国は先進国なので、発展途上国のようなことをですよ、外貨が足りないような、外貨を稼ぐような、そういうまねはするべきじゃないと、それが日本の姿だと思うわけですよ。それにやっぱり結構日本人も外国に行き、どんどん日本の金を使っているわけですよ、海外でカジノをしてですよ。国益に幾ら損を与えているかということを考えると、やっぱり国内にあるべきだと私は思いますけれども、それはそれでいいとして、市長は中央官庁におられたので、いろいろ情報が入るとは思いますけど、この申請が通る見通し、見込み、この辺はどうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

普通見込みがある場合は、私に内々に話があるんですね、これどがんやろうかとか、何やろうか。一回も来ておりません。

それともう1つが、やっぱり政権交代なんですね。恐らく内閣府も政権与党の意向というのを確認してからじゃないと、これだけ大きな話というのは多分出せないと思いますので、そういう意味では今足踏みがされているかなというふうに思います。幸いにして、民主党さんと社民党さんと、もう1つ、国民新党さんが連立与党になりましたので、ここでも社民党さんの役割がまた大きくなるのかなというふうに認識をしております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

わかりました。民主党の中にもカジノをする議員連盟か何かの議員さんもおられたように思いますけれども、まあ、それは私も見守りたいと思います。

次、ごみ袋についてお尋ねをしていきたいと思いますが、実は、そのごみ袋を持ってきたんですけどね、ここにごみ袋、私も使おうと思って名前まで書いておったんですよ。花島、松尾でですね、地区名。花島、松尾ですね。

で、これ、ごみ袋あるんですけども、これですよ、（現物を示す、底の抜けた袋に腕を通す）わかあですか。質問ですけども、こんなごみ袋でごみ出せますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

できません。本当に申しわけございませんでした。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

プレミアム物でね、これが要するにエラー物でプレミアムがつけばいいんですけども、実は、これは2回目ですもんね、私。前も1回あったわけですよ。こういうのはね、私は一般質問に出すのはどうかなと思ったけど、あんまりだなんて。もう2回あった。そのときは燃えるごみやったですよ。それで、私は去年の9月ごろだと思いますけれども、同じ状態ですよ、こういうのがありました。それで、私はそのときに環境課の市丸さんですね、前、議会事務局におられたので、よく知っておりましたので、そのときは主幹か何かされておったと思いますけれども、これはあんまりですよと、こういうのに同じような状態ですよ、同じような目に市民の人が遭ったら大変やけん、こんとき、しっかり業者に指導してくださいよとお

願いしておったわけですよ。で、またこんなことがあったんですけれどもね。どんな指導をされたんですか、質問ですよ。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

議員のその話、発注先の業者に対してこういう製品が出たと、今後十分注意しなさいよということでの指導をしたということ聞いています。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

簡単な答弁で指導されたということなんですけれども、指導が行き届いていないからこういうのがあったのかなと思うわけですよ。こういうのに当たったのかなて。私はそう感じますけどね。宝くじの当たあとはよかばってんですね、こういうのが当たっても何もならんですもんね、はっきり言って。

それで、私はこういう苦情が結構役所のほうに寄せられているんじゃないかなと思うわけですよ。私もこういう目に遭いました。その辺のところはどがんでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

お答えいたします。

ごみ袋の不良品は、御指摘のとおり、18年度に作製したものが大半で、その際は苦情は週に二、三件ほどあったという報告を受けております。現在は、苦情は年間で五、六件であります。そのうちの半数ほどは、以前に18年度作製版だと思いますが、それ以前に購入をされていたごみ袋の分であります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

今の答弁を聞きますと、古いもののことを今苦情が出ているということは、古いやつがまだまだ取扱店に残っているという、そういう認識があるんだなと思うわけなんですけれども、今、答弁からいいますと、そういうのが起こっているというのはですよ。その辺はどがんでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

議会の場でこのような御指摘をいただきましたので、ちょっと2つ検討させていただきたいと思います。

1つは、もう回収をするのか、それとも、全部が不良品というわけじゃありませんので、お使いされているのがちょっと穴のあいたったということで、それは無償で交換に応じるのかという、どちらのほうがいいのかというのは、ちょっと一回調査をさせていただいて、方針を決めたいというふうに思っております。いずれにしても、改善をしたいというふうに思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

20番松尾初秋議員

**○20番（松尾初秋君）〔登壇〕**

調査をするという話ですけどね、それは回収してくださいよ、はっきり言って。苦情は出んわけでしょう。それで、回収というたって、そがん難しか話じゃなかとですよ。何でかといったら、例えば、電気製品とか消費者の人から回収するわけでしょう。でも、今回の回収というのは、取扱店から回収するわけです。これは150店じゃないですか。そういうことは調査をするよりも、まず行って150軒回るのはそんな大したことないと思いますよ。その辺のですよ、やっぱりしてほしいと思うんですけどね。回収すべきですよ。電気製品のふぐあいがあるだけでも回収するでしょう。取扱店からの回収、そんなに私は難しい話じゃないと思う。私はこういうのにまた遭ったわけですよ。ということは、何でこういうことを言うかといいますと、小さな取扱店ですよ。食料品というのは、新しいのが来たら古いのを上に乗せてずっと置くんですけども、私はこれは推測ですよ。ゴミ袋なんかというのは腐りもしないので、どんどん新しいのが来たら、古かとがずっと私は残っと思っと思うわけですよ。それで、いつか何か掃除の季節のときにば一っとなってしまっ、そういうときにふぐあいが出てくるとか、結構あるんじゃないかなと思うんですけども、回収はいま一度考えていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

回収をいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

20番松尾初秋議員

**○20番（松尾初秋君）〔登壇〕**

そんな難しいことはないし、手間もかからないと思いますので、よろしく願います。次に、公売会についてお尋ねをしていきたいと思っております。

公売会、私もですよ、ちょっと資料を読ませていただきますけれども、20年ですね、2月からあって今8回あっておるわけですよ、公売会が。私も、公売会には8回のうち1回ぐらいは行かんやったかわかりませんが、大概リピーターとしてよう行っておるわけですよ、落としに。要らん物を大抵買いました。

それで、私はそんときの担当の人ですね、そんときは収納係やったですもんね、最初のころですから。森さんに、こいはですよ、職員さんとかおんさった姿ば見て、これ、あいやらんちやなかですかという御指摘をしたわけですよ。これはちょっと職員さんばかり多うして引き合いよらんですよという話をしたとき、まあ、滞納防止のための予防措置で収納率を上げるのが目的だったという話をされたわけです。滞納者を減らすための、収納率を上げるための目的だ。滞納したら差し押さえまでして競売にかけると。悪い言い方をすれば、それを見せしめていると。で、行政でもそこまでやるんだということを宣伝しているのかなと思うわけですよ。私が思うには、公売会の目的というのは、まず競売によって、その売れたお金を滞納に充てる税収をそのことで確保することが一番の目的ですよ。2番目は、滞納を減らして収納を上げるための宣伝効果かなと思うんですけれども、この競売会の目的はいかが考えられておりますか。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

まず、松尾議員には公売会によく参加していただいていることに対しまして、お礼を申し上げたいというふうに思います。

この目的でございますけれども、もうほとんど議員おっしゃったようなことでございます。まず、納税というのは国民の義務であるというようなことで、そういう中で大多数の納税者が期限内に納税していただいているわけでございます。こうした期限内に納税した納税者との公平を図るというようなことで厳正かつ的確な滞納整理を実施しなければならないというのは、我々収納に携わる者は肝に銘じているところでございます。そうしたことで武雄市においても、こうした視点に立ちながら、的確な滞納整理のため、差し押さえを実施しております。そして、その差し押さえた物件を現金に換価し、市税等に充当するというようなことで、これまで近隣市町とか県税事務所との合同で公売会、それとあとインターネット公売を開催しているというところでございます。

それとまたもう1つの目的が、先ほどおっしゃいましたように、納税意欲の創出とか納税義務確認のアナウンス効果というのも一つの目的としているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

アナウンス効果という言葉は私も思いつきませんでしたけれども、宣伝効果ですね、ということと税收確保。私が思っておる目的と一緒にだということはわかりましたけれども、市長にちょっとお尋ねしたいんですけれども、この8月1日は、私は秘書課で聞いたんですよ。8月1日、たしか文化会館にユナイテッドチルドレンの設立式に行かれたと思うわけですよ。そのとき、ちょうど同じ日に公売会があっただけですけども、公売の様子見られましたか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

見ました。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

そのときの感想を、よかったらお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は運が悪い男でございまして、ユナイテッドチルドレンの発足式、上田議員からお誘いがあった行って、その後に見たときには、既に物品を外に出していて、後片づけのときでありましたので、そういう意味で言うと、公売の様子は拝見をしておりますが、終わったときの、片づけのときは拝見をいたしました。ちょっとその前に行こうかなと思ったんですけど、ちょっと日程があいにく詰まっております、ちょっとタイミングがずれたかなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

正式に言うたら、片づけば見んさったということですね。そいけん、公売の様子は見られとらんとですね。

これはどうでもいいんですけれども、この8月1日にあった公売会のときに、まず参加したお客さんの数ですね、それと全体の売り上げです。そのうちの武雄市の売り上げをちょっと答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

第8回、8月1日の開催分でございますけれども、入場者数が約150名でございます。売上げが全体で23万3,591円、うち武雄市分が9万7,783円となっております。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

23万円ぐらいで、武雄市が9万ぐらいやったという答弁やったと思います。このとき、職員幾ら出ているんですかね、全体の職員と武雄市の職員の数。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

当日従事した職員の数でございますけれども、全体で30人、うち武雄市が8名でございます。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

全体の話をしていきたいと思っておりますけれども、30人も職員のおって23万円しか売上げとらんわけですよ。私もこれは市民の人から言われたわけですよ。で、私は今回質問に出したんですけれどもね。それは、近所の人から、松尾議員ていうて便所まで呼ばれたんですよ。そして、何やったかなていうぎ、これはちょっと数の多かばい、職員の数のよんにゆうおうばいという話やったわけですよ。これは問題にせんばいかんて、あんまいしかばいて言いきったわけですよ。そがんほかんもんも言いきあばいて、そういう話ですよ。

で、この売上げですね、23万円ぐらいの売上げを考えたら、超過勤務での職員のことを考えれば、これは本当に合わんわけです、はっきり言って。収納率を上げる宣伝よりも、公務員の無駄遣いば宣伝しよつごと私は感じますけれども、この点市長はどのように思いますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長。

○樋渡市長〔登壇〕

悩ましいところですね。確かに超過勤務手当を考えると、無駄遣いとおっしゃることも理解ができますし、他方でこれは財産ですので、正直きちんとケアをしなきゃいけないと、保護をしなきゃいけないということの意味もありますので、松尾議員の御質問を伺いながら非常に悩んでおります。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

わかりました。そこで、収納率の話をしたですね。目的は収納率を上げる目的だという話をされました。これは今議会の前田議員のときも答弁されておりますけれども、私もメモし損なったんで、ちょっとはっきり数字がわかりませんが、私がわかっているのは19年度は収納率が90.05%やったというのは聞いています。それが下がったような、この前の、下がっているというふうな話は聞いておりますけれども、幾らになったんですか。何%になったんですか。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

13番議員にお答えしたものでございますけれども、これは国保税も含めての収納率でございます。19年度が議員おっしゃいますように90.05%、平成20年度が88.44%ということになっております。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

このことについてどう思いますか。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

これもそのときにお答えしたかと思っておりますけれども、非常に昨年来、厳しい経済状況が続いていると、こういった経済環境がもろに反映しているのかなというふうに思っています。武雄市としては、他市の比較としましても、収納対策には頑張っているかと思っておりますけれども、こういった経済環境の中で厳しい状況が続いているというふうに理解をしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

まあ、同時不況というのがあったから仕方ないような答弁ですよ。でも、本来これをすることによって、例えば、横ばいになったとか、そういうものならいいですけども、下がっているわけですよ。最初の目的からいけば、全然目的は達成しとらんわけですよ。税込



確保も錢ばいっぱい職員に金を使うて税込確保しながら、収納率も上がとらん。でも、私もよく行っていますから、なくしてもらうのも寂しいなという思いもあるわけですよ。これは個人、個人松尾初秋としてはそういう思いもあります。

そこで、このやり方をもう少し職員さんたちの数とか、そういうのも考えながら続けてほしいなと思うわけですよ。市民の人から後ろ指を指されないように、もっとためて一遍にして、例えば、全体で30人人間が行っても300万円ぐらいの売り上げがあったら、まあいいわけですよ。あとは、こういうの言うのは、ここにおられる管理職の人は困るかわかりませんが、日曜日にあっている朝市のときに管理職員さんがボランティアでされているような形でやるとか、私はどれをせろとは言いませんけれども、いずれにしても、市民の人から、引き合わんばい、こい何しようやと言われんごとしてほしいんですけども、その点について最後に。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

この公売会につきましては、冒頭申し上げましたように、2つの大きな目的がございます。そういう意味で、続けていくということには変わりございませんけれども、そのやり方につきましては、今議員から御提案いただいたようなことも踏まえて、効率的な開催をしていきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

そのように進めていただきたいと思います。

以上で私の質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で20番松尾初秋議員の質問を終了させていただきます。